

## NTT グループ CSR 憲章

NTT グループは、「NTT グループ CSR 憲章」を基本指針として、社会的課題の解決を通じた持続的な成長の実現に努めています。

「NTT グループ CSR 憲章」は、グループのあり方を表現した「CSR メッセージ」と、具体的な重点取り組み項目を示した4つの「CSR テーマ」から構成されています。



### CSR メッセージ

私たち NTT グループは、“Your Value Partner”として、事業活動を通じた社会的課題の解決に取り組み、人と社会と地球がつながる安心・安全で持続可能な社会の実現に貢献します。

### CSR テーマ

#### 人と社会のコミュニケーション

私たちは、社会の持続的発展のため、お客さまのデジタルトランスフォーメーションをサポートすることにより、現在生じている国内外のさまざまな社会的課題に加えて、今後の技術革新の結果もたらされる新たな社会的課題の解決にも取り組み、より豊かでスマートな社会の実現に貢献します。

#### 安心・安全なコミュニケーション

私たちは、社会を支え生活を守る重要なインフラを提供する企業グループとして、社会的・倫理的な課題の克服に真摯に取り組み、情報セキュリティの確保や災害・サイバー攻撃にも強い安心・安全なコミュニケーション環境を提供します。

#### 人と地球のコミュニケーション

私たちは、グループ事業全体にわたって環境負荷を低減し、ICTの利活用による社会全体の環境負荷低減に取り組み、さまざまな地球規模での環境問題の解決に努めます。

#### チームNTTのコミュニケーション

私たちは、“チームNTT”として、さまざまなパートナーの皆さまとともに高い倫理観と人権意識を持って事業に取り組み、ダイバーシティを尊重した働きやすい職場環境の整備や個の成長に努め、豊かな地域社会づくりに貢献します。

■ NTT グループの CSR 憲章 [https://www.ntt.co.jp/csr/groupcsr/csr\\_policy.html](https://www.ntt.co.jp/csr/groupcsr/csr_policy.html)

## 中期経営戦略とCSR

### ビジョンと中期経営戦略

NTTグループでは、CSRは事業活動そのものと考え、事業活動を通じた社会的課題の解決に取り組むことで、人と社会と地球がつながる安心・安全で持続可能な社会の実現への貢献をめざしています。

2018年には、「NTTグループビジョン」を発表し、“Your Value Partner”として、事業活動を通じて、研究開発やICT基盤、人材など様々な経営資源や能力を活用しながら、パートナーの皆さまとコラボレーション（協業）しながら、デジタルトランスフォーメーションの推進により、社会的課題の解決をめざすことについて明記しています。

このビジョンをもとに、CSRと事業活動が一体となった「NTTグループ中期経営戦略」を発表し、事業活動を推進しています。

NTTは企業性と公共性の双方を求められる企業であり、他社よりも強く、社会の公器との位置づけにあります。言い換えれば、社会への貢献が私たちの企業価値の向上と等価ということです。ESG経営の推進は、NTTにとって、これまでも、これからも命題であり続けます。私たちは、さまざまな施策を通じて、世の中の変化に先んじて取り組んでいく考えです。

環境（E）については、2020年5月、環境エネルギービジョンとして、お客さま・企業・社会の環境負荷低減へ貢献する「環境負荷ゼロ」を制定しました。NTTグループは、日本の商用消費電力の1%近くを消費している会社です。まずは、自らの再生可能エネルギー利用を2030年度までに30%以上へと押し上げ、グリーン電力の推進を図っていきます。また、他の企業にもこの再生可能エネルギーを提供していきたいと考えています。我々と志を同じにする企業が増えれば、日本の再生可能エネルギー率、エネルギーの国内自給率が上がっていきます。再生可能エネルギーの取り組みは、ESGの観点ももちろんですが、社会や経済のサステナビリティにもつながっていくものと考えています。さらに、気候変動イニシアティブへの参加、TCFDへの賛同、グリーンボンドの発行等、環境関連のさまざまな活動も推進しています。2020年7月には、革新的な環境エネルギー技術の創出をめざし、新たに宇宙環境エネルギー研究所を設立しました。スマートエネルギー分野等において、既存の限界を打破するイノベーションを創出し、地球環境の再生と持続可能かつ包摂的な社会の実現をめざします。

社会（S）については、まさにICTサービスを絶え間なく提供するという事業そのものが社会的責務です。昨今、台風や大雨等の大規模な災害影響が多発しています。通信設備やサービスへの影響は増大し、復旧が長期化していることを踏まえ、停電対策等の設備の強靭化、AIを活用した被害想定による復旧対応の迅速化等に取り組んでいます。

2020年9月に、KDDIと社会貢献協定を締結し、大規模災害時の船舶を利用した物資運搬協力や、災害対応の訓練・啓発活動における相互協力を開始しました。両社のアセットを活用することでより大きな効果が期待できる分野について協力し、さまざまな社会課題の解決に向けて取り組んでいきます。

自然災害以外の脅威として、アフターコロナ時代には、継続的な事業運営のためのセキュリティの確保はより一層重要になります。在宅勤務や遠隔業務等が急速に広がっていくなか、サイバー攻撃のようなあらゆる脅威に対応し、自らの事業のみならず、お客さまの事業継続においても、これまで以上に支援するため、さまざまなサービスを提供していきます。

また、自らを変革していくには、多様な人材の活用が欠かせません。2019年12月には障がい者の活躍推進に取り組む国際イニシアティブ「The Valuable 500」に加盟するなど、ダイバーシティ&インクルージョンの取り組みも引き続き推進しています。その取り組みの一例として、当社の受付に、遠隔操作型分身ロボット「OriHime-D」を活用した来訪者対応を導入しています。外出が困難な障がいのある社員が、このロボットを遠隔操作し、応接室までの先導や問い合わせ対応等を行っています。こういったリモートワールドに対応した新しい働き方を実現するために、DXを通じた業務プロセスの抜本的見直し、そして在宅勤務をスタンダードとした働き方をグループ全体に浸透させ、推進していく考えです。

ガバナンス（G）については、企業価値向上に資するための更なる強化を行っています。具体的には、取締役会における戦略的議論の更なる活性化のため、取締役会の運営・規模・構成の見直しを行い、社外取締役比率を50%にするとともに、執行役員制度を導入し、経営に関する決定・監督の機能と業務執行の機能を明確に分離しました。コーポレート・ガバナンスをより強化し、経営の機動力の向上を図っていきます。

新型コロナウイルス感染症拡大の状況下では、通信サービスの安定提供に加え、お支払期限の延長や一部サービスの無償提供といったお客さま支援策を行うなど、あらゆるステークホルダーの皆さまに配慮したさまざまな取り組みを実施しています。

NTTグループは、“Your Value Partner”として、自己変革を加速し、お客さま、株主の皆さま、パートナーの皆さま、地域社会といったステークホルダーの皆さま方に、信頼され続ける存在となることで、持続的な企業価値向上とSmart Worldの実現に貢献できるよう、全力を尽くしていきます。

■ NTTグループ中期経営戦略 [https://www.ntt.co.jp/ir/library/presentation/2018/181106\\_2.pdf](https://www.ntt.co.jp/ir/library/presentation/2018/181106_2.pdf)



## NTT グループの「持続可能な開発目標（SDGs）」への取り組み

NTT グループは、これまでも ICT を活用した製品やサービスを通じて社会的課題の解決を図り、持続可能な社会の実現に貢献してきました。しかし近年、世界では人口増加や資源・水不足、さらに日本では少子高齢化など、グローバル規模のさまざまな社会的課題が顕在化し、あらゆる社会・経済がより大きな変革を求められる時代となりました。

それらの課題を解決するためには、「Society5.0」\*でも提唱されている通り、あらゆる場面で ICT（情報通信技術）やデータを活用した DX の推進が必要となっており、その解決に向けたグループ全体での取り組みがますます重要になってきています。

そこで、NTT グループは 2016 年 9 月に国連の「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals : SDGs）」に賛同を表明しました。同時に、グループ各社では SDGs の 17 の目標と自社の事業の関連づけを行い、目標達成に向けて取り組んでいます。

例えば、毎年開催している従業員への CSR 意識浸透を目的とした「NTT グループ CSR カンファレンス」では、SDGs の 17 の目標と関連づけながら、グループ各社が事業活動を通じて社会的課題を解決した事例を「CSR 優良施策」として共有することで、「日々の事業活動と CSR は一体である」という意識を従業員に浸透させています。このほかにも、CSR に関する社員研修の内容も SDGs を踏まえた内容に見直し、グループ内従業員に対し e ラーニングによって啓発をしています。

\* Society5.0：内閣府の第 5 期科学技術基本計画において提唱されたサイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）。



## NTT グループの重要課題

NTT グループ CSR 憲章の改定、CSR 重点活動項目の見直しにあたっては、GRI「GRI サステナビリティ・レポート・スタンダード 2016/2018/2019」の重要課題（マテリアリティ）の原則とプロセスを参考に、下記のステップで行いました。

### 重点活動項目決定までの3ステップ

#### STEP 1

CSR 課題の特定

GRIなどのガイドライン、ESG（環境・社会・ガバナンス）に関する外部評価、ならびにSDGsなどの新たな社会からの要請事項を考慮し、41のCSR課題を特定

#### STEP 2

優先順位づけ

STEP1で特定したCSR課題について、“ステークホルダーからの優先度”と“NTTグループにとっての優先度”の2軸で優先順位づけを実施し、CSRを推進していくための重要課題（マテリアリティ）である「NTTグループCSR重点活動項目」を特定

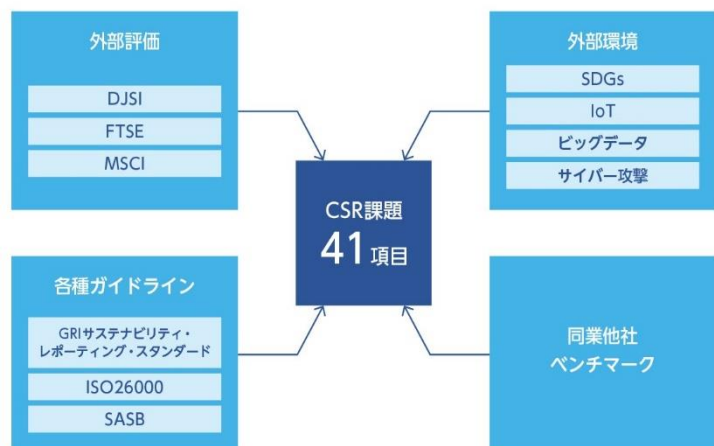
#### STEP 3

妥当性確認

「グループCSR委員会」や「CSR委員会」で、特定したCSR重点活動項目について、妥当性を確認

### STEP 1 CSR 課題の特定

GRI サステナビリティ・レポート・スタンダードや ISO26000（社会的責任に関する手引）などの各種ガイドラインのほかに、Dow Jones Sustainability Index (DJSI) などの ESG に関する外部評価や、SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）などのサステナビリティを取り巻く新たな課題も網羅的に考慮して 41 の CSR 課題を特定しました。



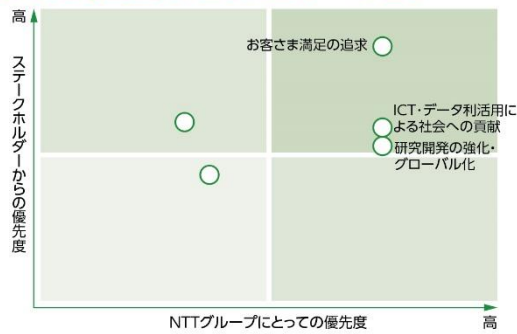
### STEP 2 優先順位づけ

STEP1で特定した41のCSR課題を、「NTTグループCSR憲章」の4つのテーマと、それらを支える基盤に分類しました。4つのテーマに対して、“ステークホルダーからの優先度”と“NTTグループにとっての優先度”の2軸で評価を行い、その結果を4つのマトリクスにマッピングし、「NTTグループCSR重点活動項目」を特定しました。

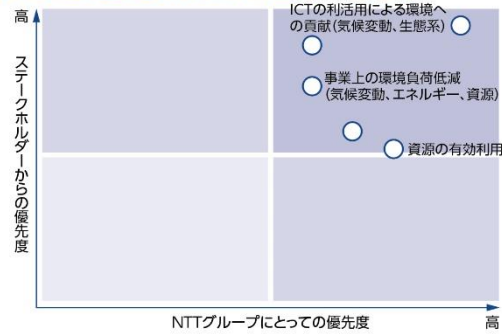
優先度の評価の際にはNTTグループ従業員満足度調査、お客さまの声なども考慮し、さまざまなステークホルダーからの期待を反映することに努めました。

また、4つのテーマを支える基盤に分類した項目については、着実に取り組むべき項目であるという位置づけで特定しました。

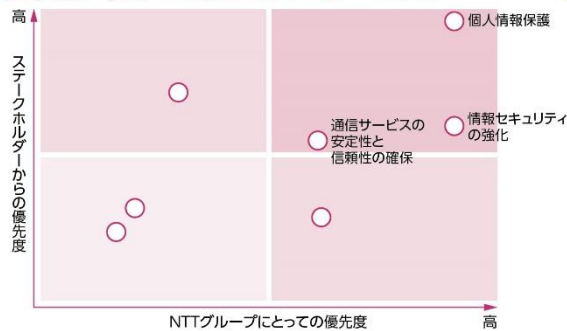
### 人と社会のコミュニケーション



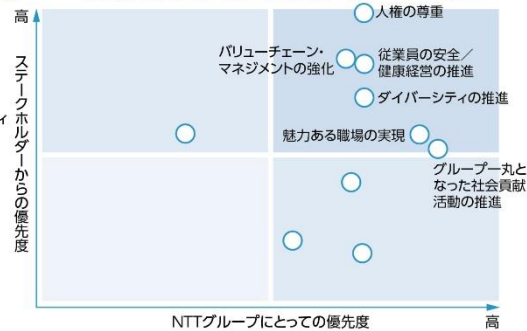
### 人と地球のコミュニケーション



### 安心・安全なコミュニケーション



### チームNTTのコミュニケーション



#### 4つのコミュニケーションを支える基盤

- コーポレート・ガバナンスの強化
- 取締役の多様性確保
- 役員報酬の妥当性と透明性
- サステナビリティ・ガバナンスの確立
- 株主の株式長期保有に向けた取り組み
- リスクマネジメント
- コンプライアンス方針の策定と遵守
- ブランド管理
- 知的財産管理
- 重要課題（マテリアリティ）の設定と PDCA マネジメント
- ESG 情報の開示と信頼性向上
- ネガティブ事象の管理と情報開示
- ステークホルダー・エンゲージメント
- イニシアティブへの参加

### STEP 3 妥当性確認

NTT グループ国内主要会社の CSR 最高責任者が集まる「グループ CSR 委員会」および、代表取締役副社長を委員長とし、各部門長、室長が委員を務める「CSR 委員会」を通じ、特定した CSR 重点活動項目について、「ステークホルダーからの要請事項が反映されているか」「NTT グループの重要課題（マテリアリティ）が網羅されているか」の観点で妥当性を確認し、最終的に以下の新たな「NTT グループ CSR 重点活動項目」として決定しました。

|  |   |
|--|---|
| <p><b>人と社会のコミュニケーション</b></p> <p>特定された CSR 重点活動項目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ICT・データ利活用による社会への貢献</li> <li>●お客さま満足の追求</li> <li>●研究開発の強化・グローバル化</li> </ul> | <p><b>人と地球のコミュニケーション</b></p> <p>特定された CSR 重点活動項目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ICT の利活用による環境への貢献</li> <li>●事業上の環境負荷低減</li> <li>●資源の有効利用</li> </ul>  |
| <p><b>安心・安全なコミュニケーション</b></p> <p>特定された CSR 重点活動項目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●情報セキュリティの強化</li> <li>●個人情報保護</li> <li>●通信サービスの安定性と信頼性の確保</li> </ul>        | <p><b>チーム NTT のコミュニケーション</b></p> <p>特定された CSR 重点活動項目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ダイバーシティの推進</li> <li>●人権の尊重</li> <li>●バリューチェーン・マネジメントの強化</li> <li>●従業員の安全</li> <li>●健康経営の推進</li> <li>●魅力ある職場の実現</li> <li>●グループ丸となった社会貢献活動の推進</li> </ul> |

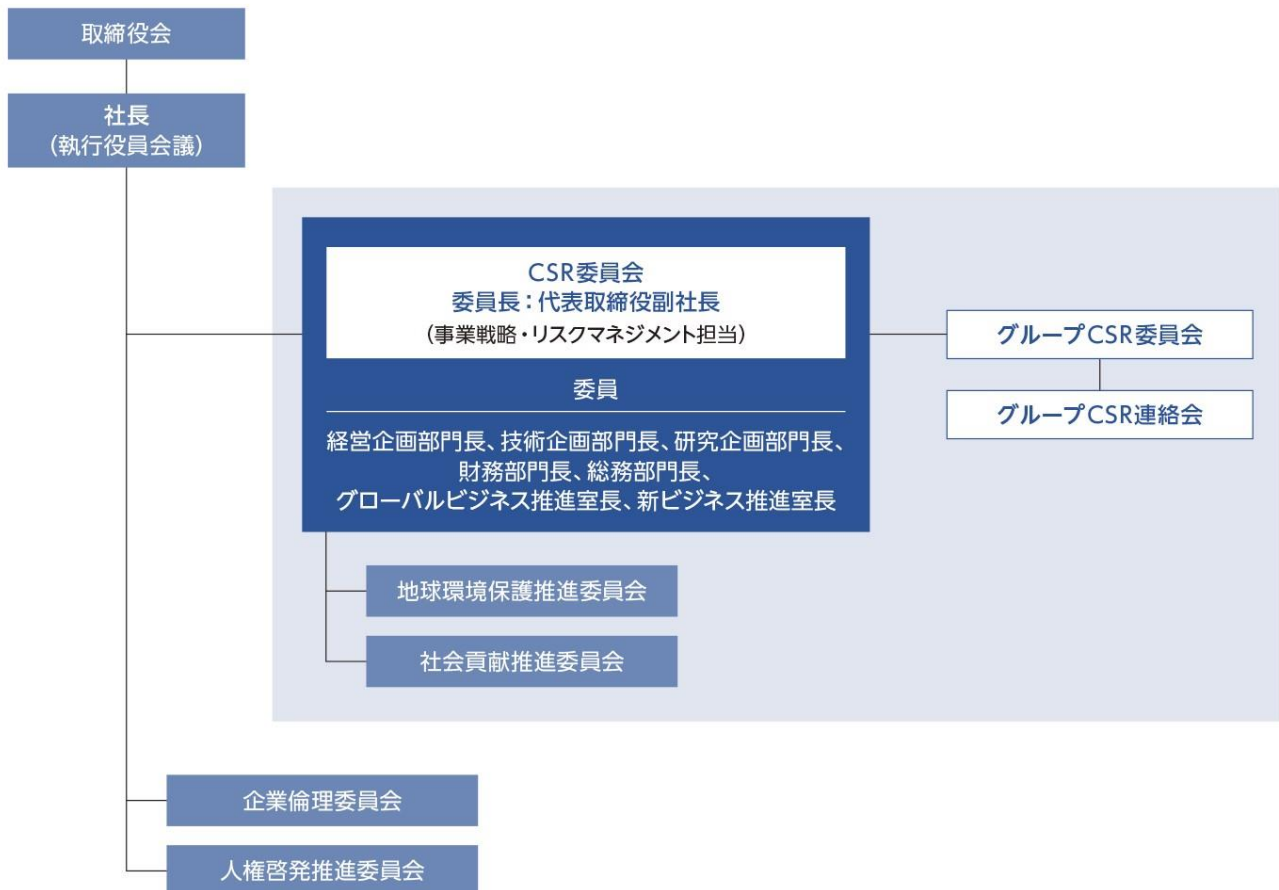
## CSR マネジメント

### CSR マネジメント体制

NTT は、執行役員会議のもとに代表取締役副社長を委員長とする「CSR 委員会」を 2005 年度に設置し、経済・環境・社会の各側面からなる CSR への取り組みについて継続的かつ適切にマネジメントしています。CSR 委員会は年 1 回以上の頻度で開催し、NTT グループの CSR に関わる基本戦略および取り組みテーマ・施策、情報開示などについて討議・決定しています。また、個別テーマを取り扱う内部委員会として「地球環境保護推進委員会」と「社会貢献推進委員会」を設置しています。

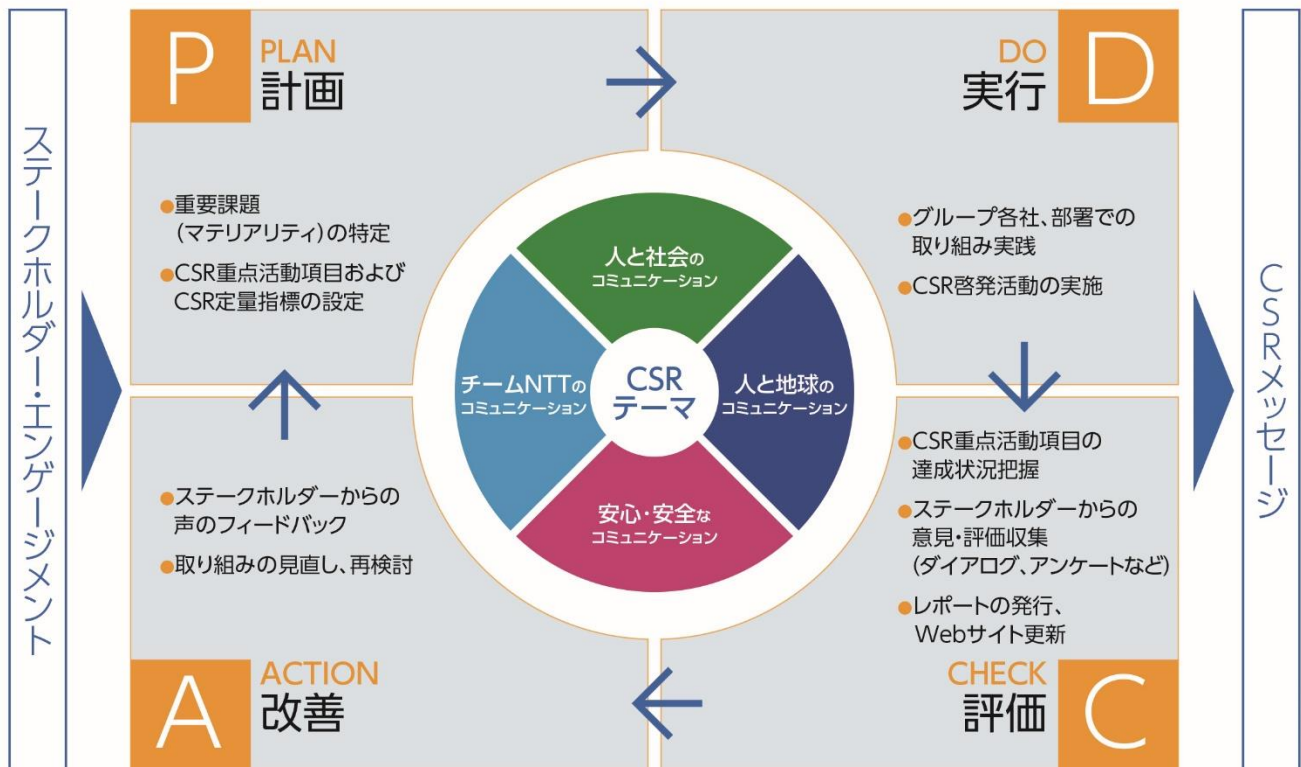
2015 年度から「グループ CSR 委員会（NTT の代表取締役副社長を委員長、主要グループ 8 社の CSR 最高責任者（副社長、常務取締役）を委員）」を開催し、グループ全体における CSR マネジメントを実施しています。さらに各社の CSR 推進担当で「グループ CSR 連絡会」を定期的で開催し、グループ共通の課題や各社の優良事例を共有するとともに、CSR 重点活動項目の実施状況の PDCA を相互に確認し合いながら、グループとして一体感のある CSR を推進しています。

2018 年度には NTT の中期経営戦略「Your Value Partner 2025」において「NTT グループの事業活動＝CSR であり、事業活動を通じて社会的課題を解決していく」ことを公表し、CSR 推進を経営の基盤に据え NTT グループの持続的企業価値向上の実現に向けて取り組んでいきます。



## NTT グループの CSR 推進 PDCA サイクル

NTT グループは、継続的に社会からの期待に応え、グループの持続的企業価値向上を実現すべく、以下の通りステークホルダーとのエンゲージメントを起点として、CSR 取り組みに PDCA を採用しています。



### 「NTT グループ CSR カンファレンス」の開催

CSRに関する優良施策を NTT グループ内で横断的に共有することを目的として、2013 年度から毎年「NTT グループ CSR カンファレンス」を開催しています。事業会社「CSR 重点活動項目」に沿って実施したさまざまな施策とその成果などをカンファレンスの場で発表してもらうというものです。優秀な取り組みは「CSR 優良施策」としてカンファレンス内で表彰するほか、最優秀の施策については、NTT グループ社長会で「CSR Award」として社長表彰しています。

### 2019 年度 CSR カンファレンスの概要

実施日：2020 年 2 月

参加者：国内外のグループ各社役員をはじめとする社員約 260 人

スケジュール：

- ①代表取締役副社長の挨拶
- ②「CSR 優良施策」(CSV 部門 6 件、社会貢献部門 4 件) の発表
- ③外部講師 (一橋大学名誉教授 石倉洋子氏) による講演  
「世界が新しい課題に直面する中で、リーダーの役割は？」

カンファレンス後のアンケートでは参加者ほぼ全員が CSR への理解度が「深まった」と回答し、社員の CSR 意識が高まる有意義な時間となりました。次年度以降も継続して開催するとともに、取り組み内容の改善や社員参加型の施策を充実させるなど、CSR 意識のさらなる浸透をめざします。

■ [NTT グループ CSR カンファレンス](https://www.ntt.co.jp/csr/groupcsr/conferences.html) <https://www.ntt.co.jp/csr/groupcsr/conferences.html>

■ [CSR 優良施策](https://www.ntt.co.jp/csr/sustainability_action/) [https://www.ntt.co.jp/csr/sustainability\\_action/](https://www.ntt.co.jp/csr/sustainability_action/)

## ステークホルダー・エンゲージメント

### 基本的な考え方

NTT グループは、世界各地の多様なステークホルダーに製品・サービスを提供しており、そのバリューチェーンは年々グローバルに広がり複雑化しつつあります。こうした変化にともない、私たちの事業に対するステークホルダーの要望や期待も多様化していることから、ステークホルダー・エンゲージメントを通じて、それらを的確に理解し、事業活動に反映していくことが重要です。とくに社会・環境問題に関しては、ステークホルダーの声にできる限り応えていくことが、社会との信頼関係を築くと同時に、企業競争力を高め、説明責任を遂行することにつながります。

### NTT グループのステークホルダー・エンゲージメント

ステークホルダーの信頼に基づいた事業活動と価値創造をしていくために、NTT グループではグローバルスタンダードである AA1000SES、および AA1000APS の一部に基づくステークホルダー・エンゲージメントを行っており、NTT グループの事業活動の全てを対象としています。全てのグループ会社がこの同じ考え方に則ってステークホルダー・エンゲージメントを実行することで、ステークホルダーとともに、より有意義な価値創造をしていくことをめざしています。なお、全てのエンゲージメントは、関連する法規制にしたがって実施しています。

### ステークホルダー・エンゲージメントの効果

| NTT グループが得られるプラスの効果   | ステークホルダーにもたらすプラスの効果   |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>新たな社会・環境課題のトレンドを特定し、それらを戦略策定に反映する</li> <li>潜在的なリスクを特定し、その対応策を見出す</li> <li>適切にブランドを管理する</li> <li>新たなビジネスの機会や、協働・イノベーションの機会を見出す</li> <li>地域社会との関係を向上させ、ステークホルダーの期待を意思決定に考慮することによって、円滑な事業運営を実施する</li> <li>NTT グループに対するステークホルダーの意見についての理解を深める</li> <li>ステークホルダーからの意見や期待に基づき、より持続可能なビジネスの意思決定を行う</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>NTT グループの戦略やプロジェクトについての理解</li> <li>ステークホルダーの要望や期待に対する NTT グループからのフィードバックの提供</li> </ul> |

### ステークホルダー・エンゲージメントのプロセス

## STEP 1 計画

#### エンゲージメントのレベルと手法

| エンゲージメントのレベル | エンゲージメントの手法の例   |
|--------------|---|
| モニタリング       | メディアなど、一方向のコミュニケーションの確認   |
| 情報提供         | 文書や Web サイト、講演および報告書などを通じた、会社からステークホルダーへの情報提供                                   |
| 対話           | 調査やフォーカスグループ、ワークショップなど会社とステークホルダー間の双方向のコミュニケーションによって、両者の関心を理解する                 |
| 会社の意思決定への関与  | アドバイザーボードやステークホルダーダイアログなどによる会社とステークホルダー間の双方向コミュニケーションによって、ステークホルダーが会社の意思決定に関与する |
| コラボレーション（協働） | ジョイントベンチャーや特定のプロジェクトにおけるパートナーシップを提携し、協働でプロジェクトを実行する                             |

#### 特定のステークホルダーとのエンゲージメントにおいて考えられる潜在的リスク

- エンゲージメントに消極的なステークホルダーの参画
- 建設的でないステークホルダーの参画
- ステークホルダー側から見て非現実的で実現不可能と思われる NTT グループへの期待
- 社内ステークホルダー間の対立 など

これらは潜在的に会社への批判やレピュテーションき損、リソースの浪費といったリスクを含む

## STEP 2 実行

エンゲージメントの実行中に、エンゲージメントに関する両者の期待を議論し、決定当初のエンゲージメント計画に修正が発生する場合、ステークホルダーの要請および当初の計画における NTT グループの意図を加味して修正

### 実行時に考慮すべき事項

- 参加者の役割および寄与のレベル
- スケジュールやエンゲージメント方法を含むプロセスの詳細
- エンゲージメントの方向性や必要となる資料のタイムリーな提供
- 秘匿情報などを含む必要とされる情報開示のバウンダリー
- エンゲージメントの結果についてのコミュニケーション

マルチステークホルダーが参画するイベントなどの開催時、互いのリスクを最小化し価値を最大化するために、全てのステークホルダーにとってバランスのとれた参画ができるよう対応

## STEP 3 フォローアップレビュー

エンゲージメントの終了後、エンゲージメントの結果を参画者および社内に報告（必要に応じ社外にも）エンゲージメントの成果の評価や、エンゲージメントのプロセスそのもののレビューを実施して得られた価値を評価するための指標（KPIs）を設定

### 報告・情報開示を含むべき事項

- エンゲージメントの目的、範囲、方法およびエンゲージメントへの参加者に関する情報
- エンゲージメントにおいて生じた問題や懸念事項を含むエンゲージメントの概要
- エンゲージメントの成果に対する NTT グループとしての対応

エンゲージメントプロセスのレビューに関しては、内部レビューに加え、参加したステークホルダーにフィードバックを要請し、その結果を今後の改善につなげる

## ステークホルダーの特定

ステークホルダーとは、NTT グループの事業活動や意思決定において、何らかの利害関係を持つ組織または個人のことをさします。NTT グループにとっての主なステークホルダーとして「お客さま（法人・個人）」「株主・投資家」「社員（社員・家族・退職者）」「地域社会」「ビジネスパートナー」「同業他社・業界団体」「国・行政機関」などが挙げられます。

NTT グループの事業に関わるさまざまなステークホルダーの皆さまに対する責任を果たし、期待に応えていきます。

| お客さま（法人・個人）   |   |   |
|---|---|---|
| NTT グループの提供するサービスをご利用になる個人・法人、全てのお客さま   |   |   |
| <b>NTT グループのアプローチ</b><br>“Your Value Partner”として選ばれるよう、社員一人ひとりが CSR への高い意識を持ち、お客さまの立場に立った質の高い便利で安心・安全なサービスを提供します。 | <b>エンゲージメント方法（例）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● お客さま問い合わせ窓口の開設</li> <li>● お客さま満足度調査の実施</li> <li>● Web サイト、ソーシャルメディアの活用</li> </ul>                     | <b>エンゲージメントする理由</b><br>お客さまのニーズや立場を理解し、より質の高いサービス・製品の提供を実現することで、お客さま満足度の向上をめざすとともに、NTT グループがお客さまにとっての “Your Value Partner” となるため。 |
| 株主・投資家  |   |   |
| NTT グループの株主・債権者の皆さまをはじめとした、個人・機関投資家の皆さま   |   |   |
| <b>NTT グループのアプローチ</b><br>健全な財務体質を維持しつつ企業価値を高めるとともに、株主の皆さまへ利益を還元していきます。また、グループに関わる情報の適時・適切かつ公平な開示に努めます。            | <b>エンゲージメント方法（例）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 株主総会、決算発表</li> <li>● 個人投資家説明会の開催</li> <li>● 機関投資家向け説明会の開催</li> <li>● 年次報告書（アニュアルレポートなど）の発行</li> </ul> | <b>エンゲージメントする理由</b><br>株主・投資家の皆さまとのコミュニケーションを通じて投資判断に必要な情報を提供し、適切な評価をいただくとともに、皆さまのご意見をグループ経営の参考とするため。                             |

| 社員（社員・家族・退職者）   |   |   |
|---|---|---|
| NTT グループで働く社員とその家族、NTT グループの CSR に賛同する退職した方々  |   |   |
| <b>NTT グループのアプローチ</b><br>多様な社員が安心して働ける職場をつくり、最大限の能力を発揮して、仕事も生活も充実できるようにさまざまな施策に取り組みます。退職した方々とのコミュニケーションも大切にします。 | <b>エンゲージメント方法（例）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 従業員満足度調査の実施</li> <li>● 定期的な面談</li> <li>● 労使間の対話</li> <li>● 企業倫理ヘルプラインの開設</li> <li>● CSR カンファレンスの開催</li> </ul> | <b>エンゲージメントする理由</b><br>社員が安心して働くことのできる職場環境を整えて生活をサポートすることで、一人ひとりが最大限の能力を発揮し、高い CSR 意識を持って業務に取り組めるようにするため。     |
| 地域社会  |   |   |
| NTT グループ各社と事業を通じた関わりがある地域社会の皆さま   |   |   |
| <b>NTT グループのアプローチ</b><br>事業を通じた社会貢献や災害対策に取り組むなど、地域社会とともに歩みます。   | <b>エンゲージメント方法（例）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 社会貢献活動を通じた支援・協働活動の実施</li> <li>● 工事、設備構築などにおける近隣地域住民との折衝</li> <li>● 寄附・スポンサーなどによる支援</li> </ul>                 | <b>エンゲージメントする理由</b><br>豊かな地域社会づくりへ貢献するとともに、地域社会の課題を理解・把握し、事業を通じて多面的に貢献するため。                                   |
| ビジネスパートナー   |   |   |
| NTT グループのサービス提供にあたり、さまざまな協力をいただいているビジネスパートナーの皆さま  |   |   |
| <b>NTT グループのアプローチ</b><br>さまざまな社会的課題を解決するために、サービスをともに創造・展開していくことをめざします。  | <b>エンゲージメント方法（例）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● お問い合わせフォームの開設</li> <li>● 調達方針・ガイドラインなどの開示</li> <li>● サプライヤ向けアンケートの実施</li> <li>● サプライヤ向け説明会の開催</li> </ul>      | <b>エンゲージメントする理由</b><br>環境・人権などに配慮した製品の調達や公正なパートナーシップの構築により、企業としての社会的責任を果たし、ビジネスパートナーの皆さまとともに持続的に成長していくため。     |
| 同業他社・業界団体   |   |   |
| NTT グループと同じく ICT サービスに携わる皆さま、情報通信の発展に努めている業界団体の皆さま  |   |   |
| <b>NTT グループのアプローチ</b><br>グローバル市場を視野に入れた情報通信産業のあり方や方策について、ともに議論を深め、さまざまな社会的課題の解決を推進します。                          | <b>エンゲージメント方法（例）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 業界団体・イニシアティブなどへの参加</li> <li>● 会議などへの参加</li> </ul>   | <b>エンゲージメントする理由</b><br>業界全体の活性化を推進するとともに、情報通信の発展や進歩を通じて社会に貢献するため。   |
| 国・行政機関  |   |   |
| 情報通信をはじめ雇用・経済・環境などの政策を司る国、行政機関および地方自治体  |   |   |
| <b>NTT グループのアプローチ</b><br>国、行政機関および地方自治体の方針などを踏まえながら、情報通信産業の担い手としての責務を果たします。                                     | <b>エンゲージメント方法（例）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 法令・規制への対応</li> <li>● 政策への提言</li> <li>● 官民共同プロジェクトへの参画</li> </ul>  | <b>エンゲージメントする理由</b><br>国、行政機関および地方自治体の方針などに適切に対応し、適切な事業活動を実行するとともに、国民や自治体が抱える社会的課題の解決に貢献するため。                 |
| NGO・NPO／有識者   |   |   |
| CSR を含む NTT グループの活動領域に軸足を置く NGO・NPO および有識者  |   |   |
| <b>NTT グループのアプローチ</b><br>NGO・NPO／有識者が有する専門的知識や経験の共有を図り、それらを情報通信産業に取り込むことで、持続可能な社会作りにも貢献します。                     | <b>エンゲージメント方法（例）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 各団体の研究会・活動への参画・連携</li> <li>● ダイアログの実施</li> <li>● 協働プロジェクトの実施</li> </ul>                                       | <b>エンゲージメントする理由</b><br>NTT グループの提供するサービスは情報通信にとどまらず、広い領域に及ぶことから、NGO・NPO／有識者それぞれの専門的視点を得て、適切かつ効果的な事業活動を展開するため。 |

## 主な活動

NTT グループは、お客さま、株主・投資家の皆さま、有識者、社員などさまざまなステークホルダーからの質問・要望などを集約する仕組みを設けています。

## 株主・投資家およびその他関連機関の皆さまとのエンゲージメント

投資家の皆さまよりいただいた要望に基づき、NTT IR DAY と呼ばれる機関投資家向け説明会を開催しています。

また、近年は、当社への理解促進と個人投資家さまの拡大をめざして、個人投資家さま向けの会社説明会の開催にも注力しております。株主総会における主な質問や決議事項については、当社 Web サイトに掲載しています。

さらに、2015 年度からは ESG 評価機関とのコミュニケーションを積極的に行っており、NTT グループの CSR の取り組みや、ESG 情報の開示の充実、ESG 評価機関や ESG 投資を推進する投資家とのコミュニケーション等、今後も継続していきます。

### 対話充実に向けた取り組み

#### 機関投資家の皆さま向け

- ・ 四半期ごとの決算説明会の実施（4 回）
- ・ 国内外の IR カンファレンスへの参加（8 回）
- ・ NTT IR DAY の開催（1 回）
- ・ 国内外での個別説明会の実施（延べ 350 件以上）

#### 個人投資家の皆さま向け

- ・ 会社説明会の実施（17 回）
- ・ オンライン会社説明会の実施（1 回）

その他、一般消費者向けとしてお客さま相談センター等に寄せられた意見をもとに業務改善や、商品・サービスの改善・開発につなげていく仕組みを構築し活動を推進

IR イベント・説明会 <https://www.ntt.co.jp/ir/library/presentation/index.html>

### 有識者とのエンゲージメント

有識者の皆さまとの対話は、ありとあらゆる分野で事業展開する NTT グループにとって非常に貴重かつ有益な機会ととらえ、積極的にその分野の専門家の皆さまとのコミュニケーションを図っています。

| 日時          | 参加者              | 対話の概要  | 有識者の意見と事業活動への反映   |
|-------------|------------------|--|---|
| 2019 年 10 月 | 人権における海外有識者      | 「ビジネスと人権に関する NTT グループの取り組み」をテーマとした、経済人コー円卓会議（CRT）日本委員会の主催によるダイアログ、NTT グループの人権における情報開示や人権デューデリジェンス等の取り組みに対する評価と世界的な動向についての意見交換    | より積極的かつ透明性のある情報公開の推奨、NTT グループへの人権や ICT により生じうる人権に関する課題についての積極的な情報発信への期待<br>⇒人権に関する調査活動の結果等を踏まえ、今後のアクションを検討詳細は P069 を参照してください。 |
| 2019 年 10 月 | フードバンクシンポジウムの参加者 | 認定団体フードバンクジャパン様主催の「フードバンク活動を社会資本へ」をテーマとしたフードバンクシンポジウム、ICT を活用した流通循環の可能性を示唆する NTT グループの取り組みを紹介                                    | 貧困にあえぐ子どもたちの実情への言及と食品の供給に対する強い要望<br>⇒子供たちの飢餓を解決するためのソリューションへの展開   |
| 2019 年 11 月 | 東北大学経済学部の学生      | 東北大学経済学部の「ステークホルダー経営実践論」講座、NTT グループの中期経営戦略や CSR の位置づけを説明し、ICT を活用した社会的課題解決の具体的事例やグループ横断のボランティアによる社会貢献を通じたステークホルダー・エンゲージメントの実践を紹介 | CSR 活動の取り組みへの反映<br>⇒ステークホルダー・エンゲージメントの質の向上  |

有識者の皆さまからいただいたご意見やご要望を事業にも取り込み、より社会の多岐にわたるニーズにお応えすることができるよう努めていきます。

### サステナビリティレポート読者の皆さまからのご意見・ご感想

NTT では、Web サイト上のお問い合わせフォームを通じて、さまざまなステークホルダーの皆さまから、サステナビリティレポートや NTT グループの CSR への取り組みに関するご意見やご感想をお寄せいただいています。